所属：鶴岡工業高等専門学校 創造工学科 基盤教育グループ

研究タイトル：

英語動詞の多義性の研究

氏名：	田邊英一郎 ／ TANABE Eiichiro	E-mail：	tanabe@tsuruoka-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	教育学修士
所属学会・協会：	日本英語学会、英語語法文法学会、全国高専英語教育学会		

キーワード：	多義性、語彙意味論、フレーム意味論、認知文法、文法指導
技術相談 提供可能技術：	・働く人たちが再度英語の勉強をする上での手助けが可能です。

研究内容：非選択目的語を持つ使役移動構文の研究

4 質の高い教育をみんなに

基本的には表面接触を表す動詞が、除去を表す動詞に用いられることがある。

(1) a. John wiped the table. → John wiped the fingerprints from the table.

b. John mopped the floor. → John mopped the spots from the floor.

矢印の左側が基本用法、右側が拡張用法である。拡張用法は使役移動を表し、目的語は動詞本来の目的語ではない。本研究はまた、次のような例にも着目する。

(2) a. John banged the catcher mitt. → John banged the dust out of the catcher mitt.

b. John shook his shoes. → John shook the sand out of his shoes.

矢印の左側が基本方法、右側が拡張用法である点、および拡張用法は非選択目的語を持ち使役移動を表す点は、wipe や mop の例と同じである。しかし、wipe、mop は、言ってみれば「物の表面を別の物でこする」ような動作を表すが、bang、shake はこのような動作を表していない。本研究は、基本用法の意味を拡張用法の意味に反映させる形で、拡張用法である使役移動構文を包括的に説明することを試みる。

本研究は、「ある場所に働きかけて、そこからあるものを取り除く」という意味が、こうした構文事例全般に共通することに着目し、次のような事象フレームを提案する。

(3) a. 基本方法の事象フレーム　　b. 拡張用法の事象フレーム

(破線/実線、太線/細線などの違いはあるが)中抜き矢印は働きかけの力、四角は働きかけの場所、円は移動物、もう一本の矢印は移動をそれぞれ表す。両者は基本的には同じ形をしているので、基本方法と拡張用法の意味的な共通点を明確に捉えている。太線図形は、意味的にプロファイルされている参与者に当たる。プロファイルされている参与者が目的語に具現されると仮定すれば、基本用法では場所項、拡張用法では移動物が目的語に具現されることが説明できる。また、特に(3b)はいま上で述べた意味を適切に表しているので、本研究が考察対象とする使役移動構文を包括的に説明することができる。この点は、説明可能な事例が限られるこれまでの先行研究とは大きな違いである。

現段階では、しかし、こうした事象フレームは記述的一般化の表示にとどまっている。これをより説得力のあるものにするためには、こうした事象フレームが人間の認知や行動にどう関わっているかを考える必要があるだろう。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	

National Institute of Technology,Tsuruoka College
Department of Creative Engineering,Center for Fundamental Education

Study of English verbal polysemy

Name	Eiichirou TANABE	E-mail	tanabe@tsuruoka-nct.ac.jp
Status	Associate Professor		
Affiliations			

Keywords	Lexical semantics, cognitive grammar, verbal polysemy

Technical Support Skills	・I can help working people study English again.

Research Contents

○ My research uses a predicate decompositional approach in the analysis of the verbal polysemy and relevant grammatical alternations.
○ My research tries to clarify what factors determine the aspectual properties of verbs or events.
○ My research also uses some viewpoints from cognitive grammar in the analysis of verbal semantics.
○ My research includes some proposals or ideas as to how to teach English grammar at colleges of technology.

＊Every two years I serve as an instructor of Kosen special seminar for junior-high students.

＊I am also available as a TOEIC instructor, although my lesson is rather for beginners.

＊Yamada(2005) states that English teaching in Japan tends to adjust itself to the feelings of the general public, which I strongly and enthusiastically endorses. Now we have to think seriously what the real purpose of English teaching is and what college English education can or cannot do from the very realistic viewpoints.

Available Facilities and Equipment